

中学校

平成 6 年 度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

平成 6 年度

教育研究員名簿（特別活動）

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
第一学 分級 科活 会動	墨 田	吾 孀 第 三 中 学 校	吉 澤 昭 男
	大 田	大 森 第 八 中 学 校	永 井 晋
	練 馬	石 神 井 中 学 校	○ 田 中 稔
	江 戸 川	松 江 第 六 中 学 校	大 嶋 道 治
	府 中	府 中 第 四 中 学 校	清 水 利 幸
	清 瀬	清 瀬 第 二 中 学 校	梅 原 久
第 二 生 徒 会 科 活 会 動	文 京	第 三 中 学 校	野 寺 和 彦
	江 東	深 川 第 三 中 学 校	松 井 昭 夫
	世 田 谷	奥 沢 中 学 校	◎ 北 村 康 子
	北	十 条 中 学 校	飯 島 睦 子
	板 橋	上 板 橋 第 一 中 学 校	稲 葉 裕 之
	日 野	日 野 第 四 中 学 校	齋 藤 道
	国 分 寺	第 一 中 学 校	井 上 弘 之
	瑞 穂	瑞 穂 中 学 校	竹 内 康 裕

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 教育庁指導部主任指導主事 山 本 修 次

研究主題

生徒の意欲を高め、一人一人が生きる特別活動

目次

I	主題設定の理由	2
II	第1分科会『生徒一人一人が自己を知り、生かすことのできる学級活動』	
1	副主題設定の理由	2
2	研究の内容	3
(1)	研究構想図	3
(2)	評価方法の研究	3
(3)	実態調査	5
(4)	自己・相互評価を取り入れた学級活動の年間指導計画	7
(5)	学級活動指導実践例	8
3	研究のまとめと今後の課題	13
(1)	研究のまとめ	13
(2)	今後の課題	13
III	第2分科会『生徒の創意を生かし、主体性を育てる生徒会活動への援助の工夫』 ——学校行事への協力を通して——	
1	副主題設定の理由	14
2	研究の内容	14
(1)	研究構想図	14
(2)	実態調査	15
(3)	生徒会活動への援助の工夫	16
	ア. 生徒の創意を生かし主体性を育てるための基本的な考え	
	イ. 具体的な教師の援助の工夫	
	ウ. 活動内容の選択	
(4)	生徒会活動指導実践例	18
	ア. 運動会——A中 開閉会式セレモニー・応援合戦——	18
	イ. 文化祭——B中 開会セレモニー・本部企画——	20
	ウ. 学芸発表会——C中 展示・舞台発表企画——	22
3	研究のまとめと今後の課題	24

I 主題設定の理由

私達教師が子どもたちに望むことは、日常の活動の中で目を輝かし、自分のやろうとしていることに自信をもって主体的に取り組もうという姿であろう。しかし現在の中学生を見ると、果たして生徒一人一人が意欲的に活動に参加しているといえるであろうか。一方、生徒が求めている「自分を生かせる、そして活躍できる」場や機会が学校に乏しいともいえるであろう。

特別活動は、教科の学習以上に自分の興味・関心を生かして、仲間と協力しながら体験し合えることができる特質を持っている。私達は、「集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的態度の育成」「望ましい集団活動を通して個性の伸長を図り、自己を生かす能力を養う」ということを再認識し、それらを学校現場に実践的に反映させることが大切であると考えた。そこで研究主題を「生徒の活動意欲を高め、一人一人が生きる特別活動」とし、学級活動と生徒会活動の研究実践から本主題に迫ってみた。

第1分科会では、学級活動の中で自分の個性を十分に理解し、それを自分の力で、また友達との関わりを通して発見し、生かそうとする意欲の育成をねらいとして「生徒一人一人が自己を知り、生かすことのできる学級活動の工夫」を副主題として研究実践を行った。

第2分科会では、副主題を「生徒の創意を生かし、主体性を育てる生徒会活動への援助の工夫」とし、学校行事への協力に関する活動を取り上げ、生徒が意欲的、主体的に活動するための援助はどうあるべきかについて具体的に研究実践を行った。

II 第1分科会 「生徒一人一人が自己を知り、生かすことのできる学級活動の工夫」

1 副主題設定の理由

学年当初の自己紹介などを聞いていると、「長所は特にありません」といった発言をよく聞く。これは、小さい頃から欠点についての指摘はよく受けるが、よいところへの賞賛はあまり受けていない結果ではないだろうか。また現在の生徒は一人一人の持つ個性の中で、明朗活発なことは長所ととらえるが、おとなしいとか真面目とかいうことは短所ととらえていて、各々の持つ多様な個性を肯定的に見ることができない結果ではないか、と本分科会では考えた。

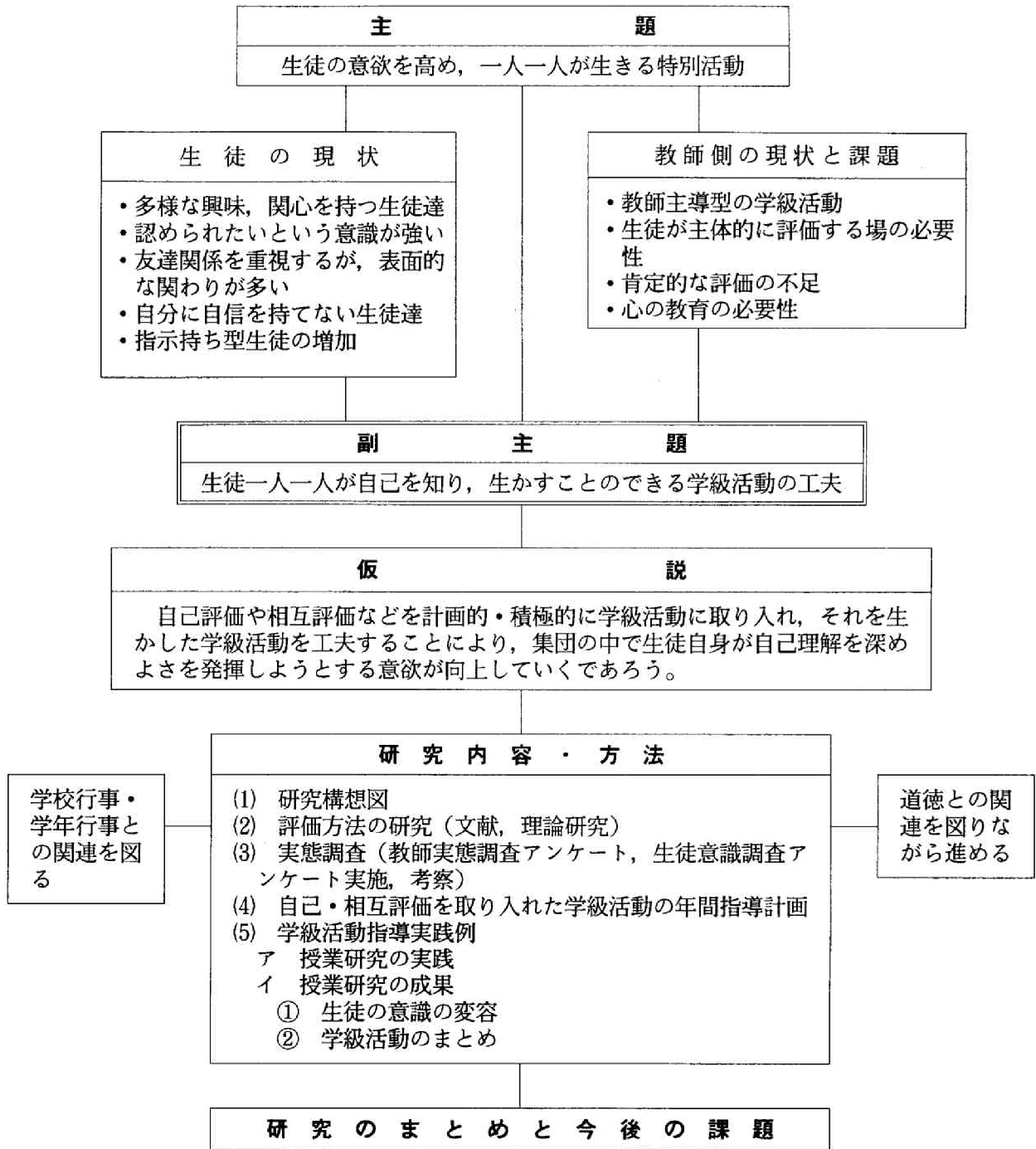
この問題点を解決するためには、生徒一人一人が自分のよさを知り、発揮することのできる集団活動が必要である。生徒の中には、学級活動の中で自分のよさがわからずにそれを生かす場を見失ったり、他から活動について評価されずに埋もれる生徒も少なくない。

生徒はだれでも学級の中で自分を発揮し、自信をもって生活したいとか、友達に認められて今以上に成長したいという願望を持っている。その願いを教師は真剣に受けとめ、生徒の欲求をかなえていく必要がある。

本分科会では、まず生徒自身が自分のよさを知るための評価活動を計画的・積極的に行い、その結果を学級活動の中に活用することが大切だと考え、本主題を設定した。

2 研究の内容

(1) 研究構想図



(2) 評価方法の研究

これからの学級活動は、生徒の意欲・思考力・判断力・表現力などの能力を育成するとともに、一人一人が自分のよさや可能性を発見して学級集団の中で伸長し、個性を生かしてたくましく生きる力を身につけさせていくことが大切である。そしてこれらの目的を実現するために、適切な評価活動とその評価で得た多くの資料をいかに生徒に還元していくかが重要なポイントになる。そのためには生徒を一面的にとらえるのではなく、個々の資質と活動による変容をあらゆる角度から観察・分析することと、生徒による自己評価・相互評価を取り

よる変容をあらゆる角度から観察・分析することと、生徒による自己評価・相互評価を取り入れることが必要である。本分科会では、生徒一人一人のよさを最大限に生かせる学級活動の中で、資料収集のための様々な評価方法を検討していくべきだと共通理解した。

ア 評価の目的

ここでは、学級内での「個々の生徒の資質や能力、態度の変容」を評価の目的にした。

イ 評価方法の分類

特別活動での評価のための資料収集方法としては、教師による観察法・質問法・テスト法、日誌・感想文・班日誌など諸資料活用法などがあるが、今回は主体を生徒においた学級活動の中での評価という観点から、自己評価・相互評価を中心において、特色とその実施方法について考えてみることにした。

① 自己評価法

質問紙法による方法が一般的である。作文、日誌などでも自己を見つめる評価が可能

— 自己の個性を知るための自己評価 —

〈個人的資質を問う自己評価観点例〉

- 自分の適性・能力をどの程度理解しているか。
- 自分の興味・関心は何か。
- 自分の長所・短所についてどの程度理解をしているか。
- 自分の現在抱えている問題を、どの程度自らが解決しようとしているか。

〈社会的資質を問う自己評価観点例〉

- リーダーとしての力や協調性が身についているか。
- 集団の中で自分の考えを伝えることができるか。(自己表現能力) 等

— 集団の中での自主的態度や意欲を

問う自己評価

〈個人的資質を問う自己評価観点例〉

- 行事での自分の態度、意欲は。
- 毎日の生活での自主性、積極性、適応力はあるか。
- 自分の抱える問題を理解しているか。またそれを解決しようという姿勢はあるか。

〈社会的資質を問う自己評価観点例〉

- 所属集団での、役割に対する意欲・態度は。
- 集団生活の向上に対する意欲・態度は。 等

である。

有効性

- 学級内での自分の活動状況をチェックし、それを自分の判断で改善していくという機能があり、自己教育力の育成という点からも重要な意味を持つ評価方法である。
- 個人的な資質である「長所」「短所」や、活動状況と変容に対する評価を比較的簡単に行うことができる。
- ファイリングやノート化による年間を通した計画的な実践により、長期的視野に立った自分の変容を自ら評価できる。

配慮事項

- 生徒によっては自分に対して客観視できず、主観的かつ一面的になってしまうことがある。たとえば、性格により過大評価になったり、過小評価ぎみになってしまう

など、個人差が大きく出てしまう場合がある。

- ・活動、目的によって評価項目を十分考え、選定しなければ、評価を生かした活動に発展させることができない。

② 生徒による相互評価

テスト法（主にゲスフーテスト）や質問紙法が一般的である。

有効性

- ・学級のほかの人が自分に対してどう思っているか、生徒にとってはたいへん関心の高いことである。したがって実施後の活用の方法の工夫しだいでは、自己のよさを深めるという意味で速効性のある評価だと考えられる。
- ・生徒の視点に立つ評価であるため、生徒一人一人のよさを多面的にとらえることができる。
- ・生徒の集団の中での役割などの社会性が評価できる。

配慮事項

- ・特定の生徒に評価が集中しがちである。
- ・学級生徒全員に対しての評価では、個人への攻撃や欠点の指摘に走りがちになる場合もあるので、教師は学級の間人関係をしっかりと把握しておかなければならない。また生徒相互の信頼関係や学級内の雰囲気作りに努め、公平・公正な評価活動ができるように配慮しなければならない。

③ 教師による日常の評価

観察法・面接法が主なものであるが、その他生徒による作文などの各種資料記録法がある。

有効性

- ・観察法・面接法は活用度が高く、教師の視点で日常の行動や様子、変容を評価できる。
- ・教師間の協力体制を作り出した場合、多くの資料を収集できる。

配慮事項

- ・観察者の主観や先入観が強く影響してしまう。
- ・面接法においては、相手との信頼関係を事前に作り出すことが大切になる。

(3) 実態調査

生徒自身は自分のよさを知っているだろうか。また知ろうとしているだろうか。そして教師は生徒のよさを認め生かそうと努力しているのだが、どこまで生徒に浸透しているのだろうか。また学級内で生徒が活躍する場面はあるのだろうか。これらを教師側と生徒側の両面から調査することにより、その実態がわかると思い、調査した。

ア アンケート結果からわかること

教師244名と生徒677名についてアンケートを実施し、教師と生徒の意識の違いについて百分率で示し、次のページに掲げたグラフを作成して考察した。

- ① 「生徒一人一人のよいところを見つける努力をしている」（自分のよいところを見つける努力をしている）

教師は→90%、生徒は→50%と自分のよさがわからない生徒が半数いる。

- ② 「生徒一人一人を励ますよう努力している」(先生や友人からほめられることがある)
 教師は→90%、生徒は→40%と日頃先生や友人からほめられることが少なく、自分のよさを発見できないという生徒の心がうかがえる。
- ③ 「生徒一人一人に学級内で活躍する場面を作るよう努力している」(学級内で活躍する場面がある)
 教師は→80%、生徒は→25%と生徒は、学級内で活躍する場面が少ないと感じている。
- ④ 「自分の活動や頑張りを評価するアンケートの必要性」
 教師は→60%、生徒は→33%と自分の活動や頑張りが評価されることが少ない。
- ⑤ 「自分の活動や頑張りを評価する作文の必要性」
 教師は→60%、生徒は→20%と作文を書くことに否定的な意見が多い。
- ⑥ 「学級内で、生徒のよいところを指摘させ、認め合うような機会をもっている」(学級内の友達の立場を考え、理解するように努力している)
 教師は→50%、生徒は→70%と教師の働きかけ以上に生徒は「友達思いである」と考えられる。

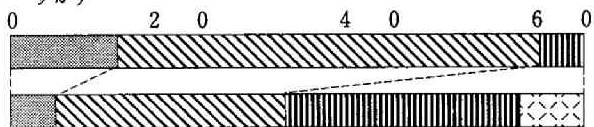
この調査から、教師は生徒のよさを知り励ます努力をしていると思っているが、生徒は自分のよさがわからずほめられることが少ないと半数以上が答えている。また生徒は、教師が思っているほど活躍する場面や機会があるとは感じていない。教師は、生徒がもっている可能性を十分に発揮する場面や機会をより多く設けることが必要である。したがって生徒が自分のよさをを見つけるための自己評価の実施や、お互いのよさを認め合い気づかせるための相互評価の機会を設定することが必要であろう。

《教師と生徒の意識の違い》

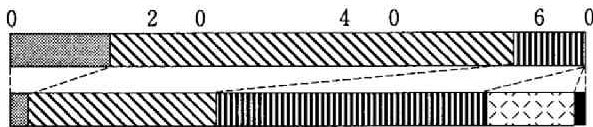
上段：教師
 下段：生徒

よく・とても
 している
 あまりいない・ない
 いない・ない
 無解答

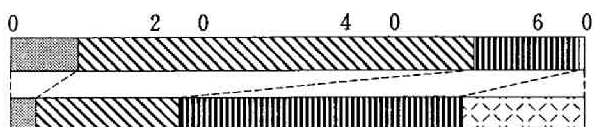
① 生徒一人一人のよいところを見つけるよう努力していますか。(自分のよいところを見つけるよう努力していますか)



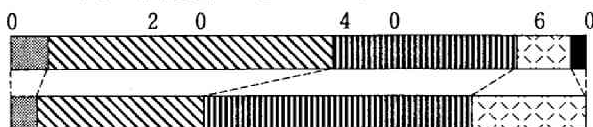
② 生徒一人一人を励ますよう努力していますか。(先生や友人からほめられることがありますか)



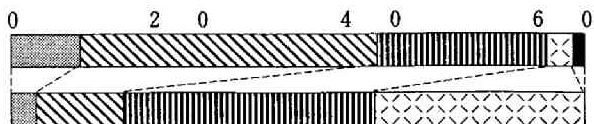
③ 生徒一人一人に学級内で活躍する場を作るよう努力していますか。(学級内で活躍する場面がありますか)



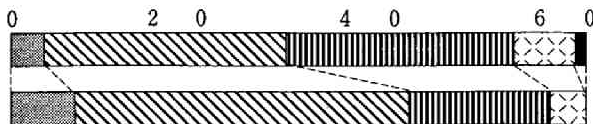
④ 生徒一人一人に学級活動の様々な場面で、自分の活動、頑張りを反省や評価するためにアンケートを作り、行っていますか。(必要だと思いますか)



⑤ 生徒一人一人に学級活動の様々な場面で、自分の活動や頑張りを見つめるための方法として作文などを書かせていますか。(必要だと思いますか)



⑥ 学級内で、生徒のよいところを指摘させ、認め合うような機会をもっていますか。(学級の友達の立場を考え理解するように努力していますか)



〈調査結果〉

(4) 自己評価・相互評価を取り入れた学級活動の年間指導計画例

学級活動の年間指導計画は、学級の実態、学級の特徴、学級に所属する生徒の考え方や生き方を重視し、学級の生徒自身による実践的活動が助長されるように作成することが基本となる。その中に、自己評価・相互評価を計画的・意図的に取り入れることが大切であると考え、年間指導計画の中にそれを位置づけた。

年間指導計画例（2学年）

学期	月	題 材	活 動 内 容	評 価 の 観 点	評価方法
一 学 期	4 ・ 5	<ul style="list-style-type: none"> 2年生としての抱負 学級の組織作り① 	<ul style="list-style-type: none"> 一年の時の反省をもとに目標を立てる 役割分担，活動目標を話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に目標を設定しようとしているか 組織作りが協力して行われたか 	自己評価
	7	<ul style="list-style-type: none"> 一学期の反省 夏休みの生活設計 	<ul style="list-style-type: none"> 一学期の反省をする 充実した夏休みを考える 	<ul style="list-style-type: none"> 計画等が適切か 目標が達成されたか 	自己評価 相互評価
二 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> 二学期の生活 文化祭への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 生活目標を考える。 積極的に方法・分担を話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 一学期の反省を基に，目標を立てようとしているか 役割分担を実行し，皆と協力できたか 	自己評価 相互評価
	10	<ul style="list-style-type: none"> 学級の組織作り② 上級学校と職業 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさを生かして班内係を決定する 自己の個性・特性について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 他の人のよさも認めようと努力していたか 自分のよさを理解し，生活に生かそうとしているか 	自己評価 相互評価
三 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> 新年の抱負 学級の組織作り③ 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生につながる目標を考える それぞれのよさを生かすように班の中の係を決定する 	<ul style="list-style-type: none"> 最上級生になる心構えができたか 学級内での自分の役割を意識できたか 	自己評価 相互評価
	3	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の反省 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の反省をし，改善を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 充実した次年度を考えることができたか 	自己評価

(5) 学級活動実践例

ア 授業研究の実践

学級の係活動はどの学校でもあると思われるが、本学級では一人一人が自分の役割をもち、よさを生かそうとすることを重視した。さらに小集団の中で責任を果たせるよう班の中で一人一人が何らかの係となり、日々の生活の中で仕事を分担することを考えた。学級の中では範囲が広すぎて活躍できない生徒でも、班という小集団であれば果たせるのだという責任感を持たせることがねらいである。

① 題材 「係活動に責任をもたせ、積極的に活動させる」

② 活動のテーマ 「班内の係を決定しよう」

③ 題材のねらい

- ・自己評価の実施により、自己のよさを認識させる。
- ・相互評価の実施により、個々の持つよさを認め合い、気づかせる。
- ・評価活動を生かした学級活動により、一人一人のよさを小集団の中で発揮しようという意欲を育てる。
- ・学級活動の自治的な力を高め、学級の質的向上を図る。

④ 活動の過程

〈事前の活動〉

- a 班員としての意識を問う自己評価アンケート（資料1）を行う。
- b 相互評価による班長の選出を行う。
- c 教師の援助のもとに、班長が自己評価に基づき活動のアンバランスがないよう班編成を行う。（放課後）
- d 自己のよさを問う自己評価アンケート（資料2）を行う。
- e 班変えの実施と、同じ班員のよさを問う相互評価アンケート（資料2）を行う。
- f 学級委員等の司会係と班長に、授業の目的、進行の方法を説明する。（放課後）
- g 自己評価、相互評価に基づき、班の話し合いで班の中での係を決定し、その決意を発表する。（本時）
- h 意識の変容を見るために、班員としての意識を問う自己評価アンケート（資料1）を行う。（後日）

〈本時の活動内容〉

- a 自己評価、相互評価で自己の持つよさを発見する。
- b 班の中での係の決定と、一人一人の決意の発表を行う。

⑤ 本時の展開

学習の流れ	活動の内容	指導上の留意点
活動の導入	<ul style="list-style-type: none">・司会係による話し合いの進め方についての説明を聞く。・班内の係の仕事の内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none">・あらかじめ自己評価のプリントと相互評価のまとめを配っておく。

活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・班長の司会で自己評価と相互評価の結果を一人一人見比べ、自由にその感想を班会議の中で発表し合う。 ・自己評価に基づき各自が係の希望を出す。 ・相互評価に基づき班員が推薦者を出す。 ・立候補、推薦により自分のよいところが生かせる係を班で決定する。 ・あらかじめ用意された画用紙に自分の係、決意を書く。 ・自分がなぜその係になったか、係になっての決意を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの良いところを認めあえるように確認する。 ・全員の生徒が話し合いに参加しているか観察する。 ・机間巡視を行い、円滑に係を決定しているかを確認する。 ・画用紙は発表の時に、持って出る。 ・授業後には教室掲示をする。 ・何人発表するかはそれまでの時間を考え、司会係と相談する。 ・本時に発表できなかった生徒は後日発表させる。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・司会係がまとめを行う。 ・教師による助言、まとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさをこれからの生活に生かすことがどれだけ大切かを理解させる。

⑥ 評価の観点

- a 自己・相互評価を通して積極的に自分と他のもつよさを発見しようとする態度を育てることができたか。
- b 学級の班活動、係活動の中で、自分のよさを発揮しようとする意欲を育てることができたか。
- c 今回の班活動と、全体に対する発表を通して、自主的に学級集団を高めようという意欲を身につけることができたか。

⑦ 今後の活動

- a 各係会議を行い、一人一人の活躍する場を与え、活動計画、内容を検討する。
- b 全員が本来の目的通り、自主的、意欲的に活動しているか、定期的に評価・反省を行う。
- c 次回の班編成の時にも同様の取り組みを行う。

資料1 この資料は班員としての意識の高揚と、席替え時の資料である。具体的には点数化して班に偏りが出ないように工夫するために行った。

《班員としての意識調査》

・自分の班の一員としての意識を確認してみよう

	1	2	3	4
	よく	まあまあ	あまり	ぜんぜん
1. あなたは班員の誰とでも仲良くできますか				1 2 3 4
2. あなたは班員一人一人のよいところを知っていますか				1 2 3 4
3. あなたは班目標をしっかりと守っていますか				1 2 3 4
4. あなたは自分から進んで仕事をしますか				1 2 3 4
5. あなたは最後までねばり強く仕事をしますか				1 2 3 4
6. あなたは班員と何事に対しても協力していますか				1 2 3 4
7. あなたはリーダーを助けるよう心がけていますか				1 2 3 4
8. あなたは自分と異なる意見も尊重していますか				1 2 3 4
9. あなたは班の中で自分の役割を生かせる努力をしていますか				1 2 3 4
10. 一人一人が自分のよさを見つける努力をしていますか				1 2 3 4

資料2 この資料は係決定の授業時にどの係にはどの項目が必要かを考え、係を決定するために使用する。自己評価と相互評価は項目を同じにし、右側の空欄に、自己評価には資料1と同じ1 2 3 4を、相互評価には括弧をつけ班員の名前が書き込めるようにした。

《自分の（友達の）行動・性格をふり返る》

1. リーダーシップを発揮することができますか（指導性）				1 2 3 4
2. 相手の気持ちを考えて行動できますか（思いやり）				1 2 3 4
3. 話し合いや授業で自分の意見を発表できますか（積極性）				1 2 3 4
4. 雰囲気にならず正しく判断し行動できますか（公正）				1 2 3 4
5. 誰に対しても公平に意見を言うことができますか（公平）				1 2 3 4
6. 当番等の奉仕的活動にまじめに取り組むことができますか（奉仕）				1 2 3 4
7. 整理整頓がきちんとできますか（望ましい生活習慣）				1 2 3 4
8. 公共物を大切に扱うことができますか（公共心）				1 2 3 4
9. 仕事はがまん強く最後までできますか（責任感）				1 2 3 4
10. 何事にもコツコツと地道に取り組むことができますか（勤勉）				1 2 3 4
11. 授業に意欲的に取り組むことができますか（向上心）				1 2 3 4
12. 新しい遊び等をつくることができますか（創造力）				1 2 3 4

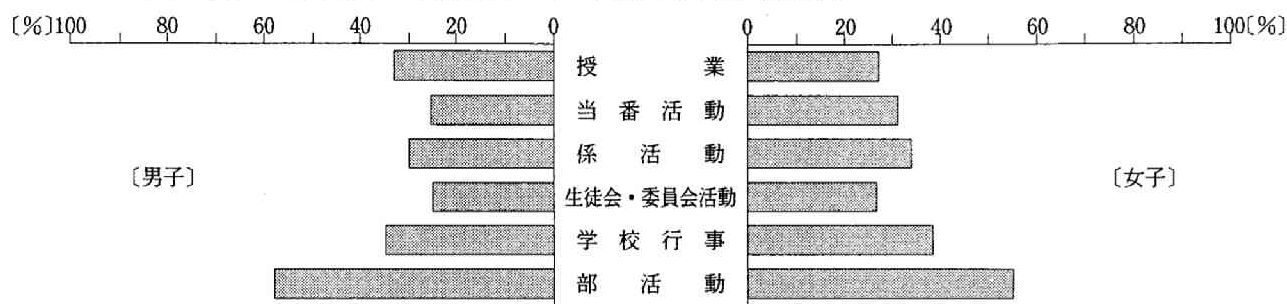
イ 授業研究の成果

学級活動では、生徒一人一人が自分の考えをもち、活発な意見の交換が行われた。

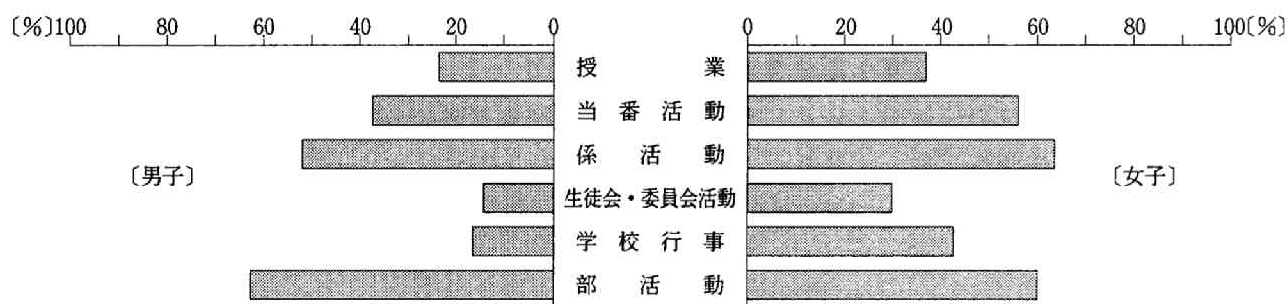
その中で、自分のよさを見出し、係活動を通して意欲的に生活していこうとする雰囲気が出来てきた。活動後の次のグラフに生徒の変容を見ることができる。

《諸活動における自己評価の結果》

あなたはどのような場面に、自分を生かしていると思いますか。(活動前)



(活動後)



① 生徒の意識の変容…生徒の感想から

《自己の変容》

- ・僕が一番ためになったことは、みんなが班のために努力しようとしているので、僕も頑張ろうと思いました。(T男)
- ・班のみんなと係を決めることで、みんなのよいところが少しわかったので、よかったと思います。それぞれ、自分の特徴を生かした係が決まった気がします。班の話し合いでは自分の意見をしっかりと行って班での話し合いを進めることができました。(A男)

《他への思いやり》

- ・授業をして、班のよいところや協力するということの大切さを知りました。いろいろな係の分担を持って、班の中での一人一人の大切さを知りました。(M子)
- ・授業で、みんなが何を考えているのか、どういうことを考えているのかとか、人のいいところとかがとてもよく分かりました。これからこの調子でいけば、この一年が終わる頃には、人のことが分かるクラスができると思います。(K男)

《今後の決意》

- ・決める時には、自分のことだけを考えないで、班のみんなのことを考えて決めました。これからの私の決意は、生活係として、自分のため、班のため、クラスのために頑張ることです。(N子)

- ・私はこの授業で、班のみんなのいいところやよりよくすべきところを見つけました。班のいいところ全部を知りつくして、すごくいい班にしたいです。(E子)

② 学級活動のまとめ

《成果が見られた点》

- ・一人一人が自分の意見をはっきりと言い、それをしっかりと受けとめようとする雰囲気が出てきた。
- ・自分の生活の様子を見直すことと、自分のよさを再確認する意味で、自己評価アンケートは効果があった。
- ・お互いのよさをを見つけるために相互評価アンケートを活用したが、班員の適性をさらに発見しようとして、班員同士の活発な意見交換が行われていた。
- ・班員が各係の内容を理解し、さらには係活動を通して前向きに生活していこうとする様子が各班に見られた。
- ・全体の前で一人一人が発表することにより、仕事に対する責任感と係に対する自覚を身につけることができた。
- ・自分と異なる意見を持つ班員と班の話し合いを進める中で、お互いを理解することと、相手を思いやる態度が芽生えてきた。
- ・自分達のことは自分達でという、自発的な活動が授業実践の中で見られるようになった。
- ・お互いの信頼関係が豊かになり、クラスの雰囲気がよくなってきた。
- ・生徒に画用紙を使って発表させたが、彩色などに工夫が見られ、視覚に訴えて自分をアピールしようとする様子が見られた。

《改善を必要とする点》

- a 相互評価アンケートの集計の結果に、生徒の名前がかたよる傾向が見られた。
- b 一人一人の意見を尊重するあまり、なかなか時間内に係が決まらない班もいくつかあった。
- c 自分のなりたい係を主張するあまり、お互いが感情的になる場面も見られた。

以上の課題を協議して、以下のような授業の改善の工夫を考えてみた。

aについては、日頃から一人一人のよさをみつける場面設定を教師サイドで作っていくことが必要である。おとなしい生徒やコツコツと努力している生徒などは、学級活動などを利用してお互いを認めあえる雰囲気づくりを重視したい。b・cについては、係の内容についてもう一度生徒を含めて話し合いを持ち、生徒が意欲を持って活動することができるような工夫を考えてみる。そうすることによって、班の中での一人一人の存在感や位置づけを、班員それぞれが理解できるようになると考える。

《実践のまとめ》

- ・お互いのよさをみつけようとしている場面が随所にみられるようになり、今後の活動において、お互いの協力しようとする態度が期待できる。
- ・一人一人の考えを尊重し、その中で自分の最も適したやりがいのある係は何かを真剣に考え、その係を責任を持って実践しようとする意気込みが感じられた。
- ・相手の意見をしっかりと聞き、自己の意見を発表する中で、自己表現力と思いやりの心

があらわれてきた。学級活動での自主的な活動につながると考える。

3 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究は、元来教師の指導計画・実践を反省し、次からのよりよい活動に発展させるために行われることの多い特別活動における評価を、自分自身のよさを深く見つめるための資料として、直接生徒個々の成長と学級での活動にいかにかけるかの研究であった。

活動の成果を総括すると、次のようにまとめることができる。

ア 自己評価、相互評価の継続的な実施による生徒の変容

- ・自己・相互評価活動が互いに作用し、「自身のよさを見つけよう」という意欲が見られるようになってきた。
- ・「他のよさを見つけよう」という姿勢が生まれ、少しずつ学級の中に信頼関係が生まれていった。
- ・「自分のよさを知る、認識する。」という点ではまだまだ途中段階である。今後継続した評価活動が必要だと考える。

イ 相互評価の公表

- ・相互評価の結果を全体の場で教師の援助のもと、公表することによって「自分のよさを他に認めてもらいたい」「認めてくれたみんなのために責任を持って活動したい」という欲求が芽生え、当番活動、班内での係活動が活力を持ってきた。
- ・活動前の学級の他を思いやる温かな雰囲気づくりには大変苦労した。

ウ 一人一人を生かす学級組織の工夫と活動の成果

- ・学級全員が班、学級の中で小リーダーとなりうる学級組織を生徒とともに考えた結果、それぞれがその役割の中で持ち味を生かし責任ある活動をするようになった。
- ・生徒の中には自主的に係の活動内容を工夫するなどの発展も見られた。また活動の中心になった班長たちが大きく成長し自治的な活動としての成果を上げた。

(2) 今後の課題

我々教師にとって大切なことは、どの生徒にも必ずよさはあるということをしっかり認識し、学級活動において発見した生徒のよさに着目し、援助することである。そのために評価を活用した活動をする上で次のことが大切になってくる。

ア 今回は班という比較的小さな集団の中で自分のよさを発揮していこうという実践であったが、今後、学級という大集団の中で意欲がもてる活動に発展させていく。

イ 学級経営の上で生徒同士が安心して、全員が自分らしさを発揮できる「思いやりのある」雰囲気を作り出そうとする努力を積極的に行う。

ウ 教師と生徒の信頼関係、生徒相互の信頼関係を作り出す日常的な努力と諸活動の工夫を行う。

エ まだ自分のよさがわからない、活動意欲に欠ける生徒に対して繰り返し働きかけを行う。尚、一人一人の可能性を引き出そう、生徒の主体的活動を援助していこうという自分達教師の姿勢を含め、今後さらなる研究をしていきたい。

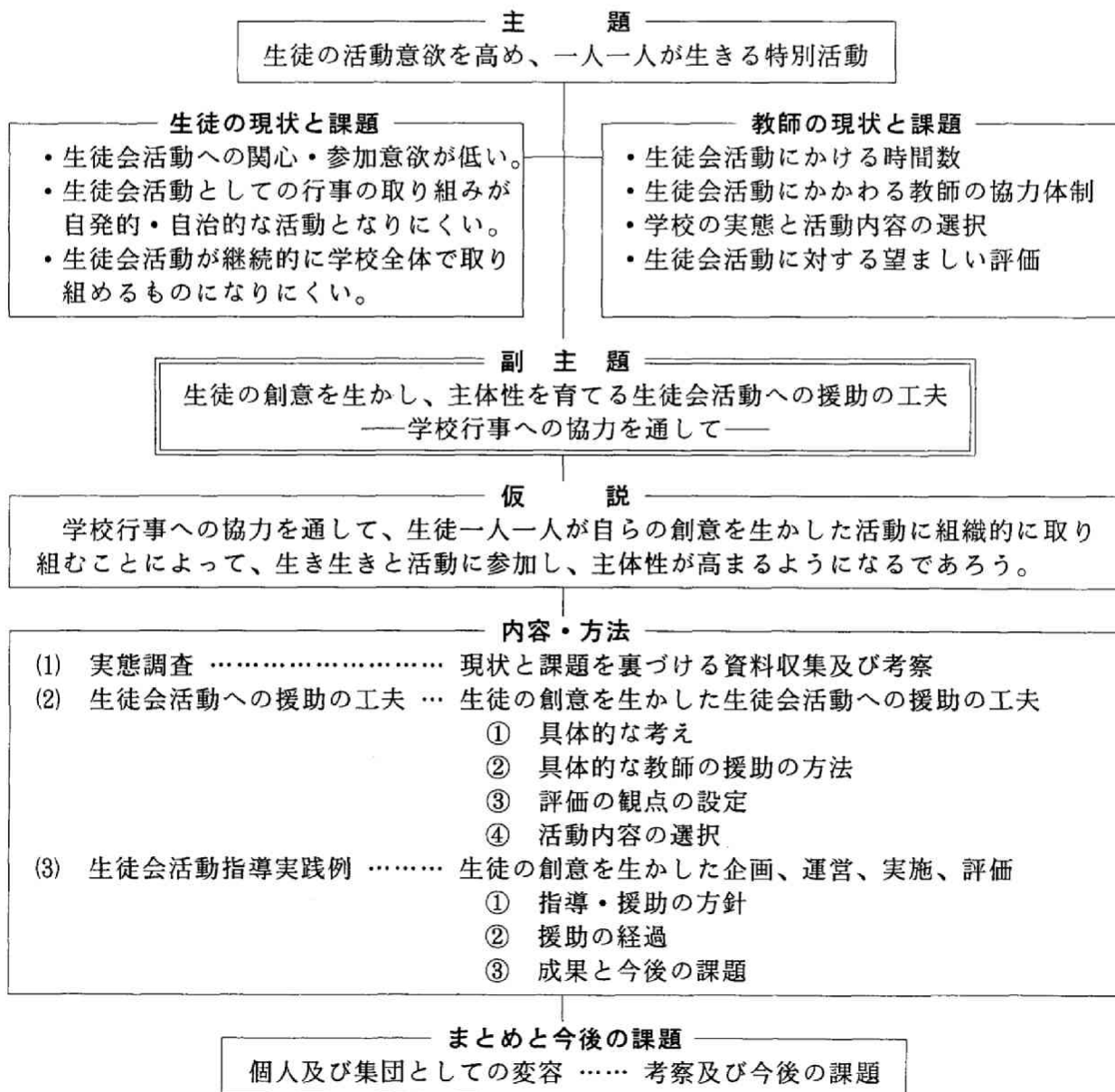
Ⅲ 第2分科会「生徒の創意を生かし、主体性を育てる生徒会活動への援助の工夫」 ——学校行事への協力を通して——

1 副主題設定の理由

生徒会活動は、生徒一人一人が活動の主体となり自らの学校生活を豊かで充実したものとするために、自ら進んで活動に取り組み、学校生活の充実・向上を図る活動である。しかし、生徒会活動が教師主導であったり学校全体で組織的に取り組めていなかったりするなど問題点も少なくない。そのため生徒一人一人の生徒会活動に対する関心や参加意欲も低くなり、生徒会活動が、自発的・自治的な活動になりにくい傾向もある。本分科会では、この現状を解決していくには生徒の創意を生かし、主体性を育てる援助の工夫が必要であると考え、本副主題を設定した。

2 研究の内容

(1) 研究構想図



(2) 実態調査

生徒会活動についての意識調査によると、生徒会活動に「関心を持たない層」が52%を示し、50%の生徒が「参加意欲をあまり持たない」という回答をよせた。

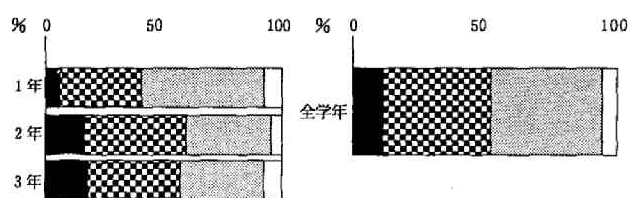
しかし、学校行事に「生徒会として計画の段階から参加・協力してみたい」という生徒が、62%いる。また生徒会活動の中でも文化的活動を高める行事や旅行・集団宿泊行事に対しての参加意欲が高い。より多くの生徒が体験をし、取り組みの過程や発表の場で活動の喜びを得ているのである。

以上のことから、生徒の活動意欲を高め、生徒一人一人を生かす生徒会活動にするために、生徒の活動の場面が多く設定しやすい学校行事に内容を選択することと、生徒会として組織的に取り組む過程で、生徒の創意を生かすことが大切であると考えられる。そして教師がこの生徒の活動を援助していくことで、生徒の主体性は高まっていくであろう。

《生徒会活動についての意識調査》対象：1年生 594名 2年生 663名 3年生 674名 全学年 1931名

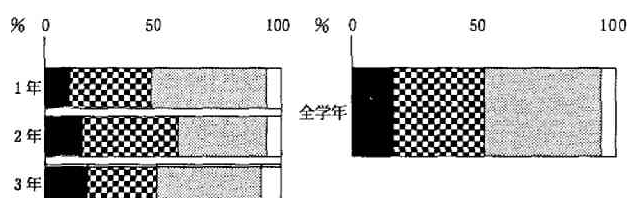
質問1 生徒会活動に関心を持っていますか。

- ①とても関心を持っている。 6%
- ②多少、関心を持っている。 42%
- ③あまり関心がない。 40%
- ④まったく、関心がない。 12%

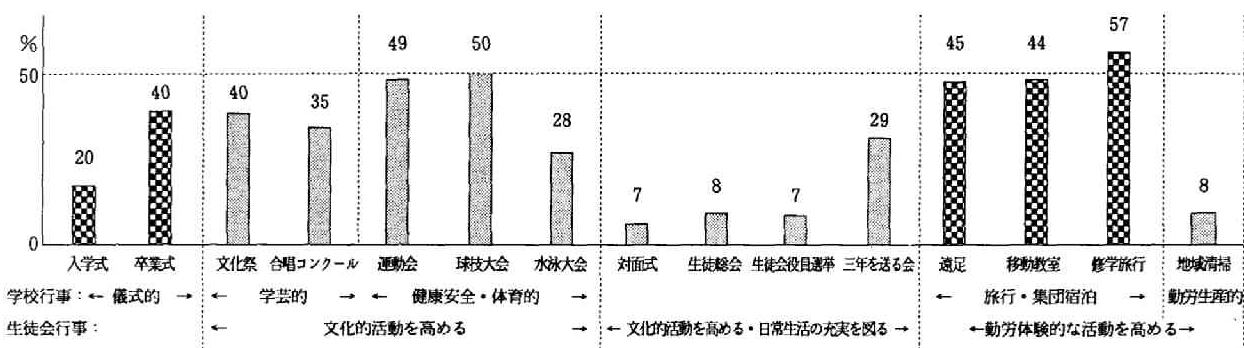


質問2 日常の生徒会活動（例えば委員会活動など）にすすんで参加したいと思っていますか。

- ①積極的に参加したい。 6%
- ②できる範囲で参加したい。 44%
- ③あまり参加したくない。 35%
- ④まったく参加する気がしない。 15%

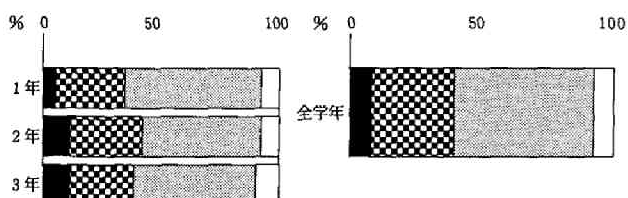


質問3 次の学校行事のうち、すすんで参加しようと思う行事はどれですか。



質問4 学校行事に、生徒会として計画の段階から参加・協力する機会があれば、どんなかたちで参加してみたいですか。

- ①積極的に計画に参加したい。 8%
- ②できる範囲で計画に参加したい。 54%
- ③少なからず計画に協力してもよい。 29%
- ④できることならやりたくない。 9%



(3) 生徒会活動への援助の工夫

ア 生徒の創意を生かし、主体性を育てるための基本的な考え

- ① 生徒の創意を生かし主体性を育てていくためには生徒自身が気づき、工夫し、行動し、さらによりよいものにしようとする意欲を高めていくという過程が大切である。
- ② 体験活動と話し合い活動は、自ら解決すべき課題に気づくことを生み、主体的に参加する態度を育てていくものである。
- ③ 体験活動と話し合い活動のなかで、一人一人を認め励ます教師の援助は、生徒の意欲を高めるものにつながっていく。

そこで生徒会の一人一人が互いに認め合い励まし合い、主体的に活動に取り組むために、教師は集団や生徒一人一人を観察し、実態を把握した上で、活動の指導・援助の方針を立て、適切な助言を与え、生徒の活動を援助していくことが大切である。

イ 具体的な教師の援助の工夫

- ① 実態把握 …………… 集団や生徒一人一人がどんな課題をもち解決していこうとしているかを把握する。
 - * 生徒の発達段階・活動経験〈活動計画の立て方・取り組み方〉 } ◎質問紙
 - * 集団とその人間関係〈認め合い、励まし合うことの様子〉 } ◎観察法
 - * 解決すべき課題〈気づき〉
- ② 全教師の共通理解のもとに、活動の指導・援助の方針を立てる。
- ③ 生徒の意欲を支える活動全てに、教師の援助が大切であると考え、体験活動や話し合い活動のなかに取り入れていく。
 - ★ 助言・指導 …………… 生徒の課題解決に対して適切な助言・指導をしてよい活動や発言を賞賛する。
 - * 活動計画の立て方・取り組み方へ ○話し合い活動 } ◎観察法
 - * 活動計画を生かす工夫へ } ◎活動記録
 - * 活動計画を実践することへ ○体験活動
 - * 生徒同士が認め合い、励まし合うことへ
 - ★ 準備・資料提供…活動がより効果的に行われるように活動の進め方を確認したり、必要な資料等の準備・提供をする。
 - * 活動計画の立て方・取り組み方の例示 } ◎視聴覚機器
 - * 記録、反省材料の提示 } ◎記録ノート
 - * 話し合い活動、体験活動の場の設定 } ◎反省ノート
 - ★教師による評価…集団や生徒一人一人の主体的な参加を積極的に評価する。

《話し合い活動と体験活動の中で生徒を評価する観点例》

関心・意欲・態度

- ・話し合いに積極的に参加しているか。
- ・協力して行事を盛り上げようとしているか。
- ・自分の持っている力を積極的に生かそうとしているか。

思考・判断

- ・話し合いの中で問題が起きた場合、解決する方法を十分考えているか。
- ・行事を成功させるために全体のことを考えて行動しているか。
- ・自分の役割分担を正しく把握しているか。

技能・表現

- ・話し合いの中で筋道をたてて周りに説明できるか。
- ・行事に計画の段階から参加・協力し、企画・立案・運営の仕方を身につけたか。
- ・自分の持っている力を生かし役立てているか。

知識・理解

- ・学校行事のねらいを正しく理解したか。
- ・みんなで1つのことを決める手順を正しく理解したか。
- ・活動の喜び・充実感・満足感を味わえたか。

ウ 活動内容の選択

① 生徒会活動の内容

生徒会活動を活発にするためには以下のような内容が望まれる。

- ・生徒の学校生活と密接に関係し、生徒が興味をもって取り組めるもの。
- ・各教科で身につけた知識が実践的に課題の解決にあてられるもの。
- ・集団の中で生徒自らのよさを見出し生かせるもの。
- ・生徒がお互いの考えや意見を述べ、共感や理解を深め発展できるもの。
- ・多くの生徒が活動の発表の場をもち、その成果がお互いに確認し合えるもの。

② 教師の姿勢

生徒の創意が生かされた活動計画のねらいを明らかにさせ、適切に援助していく。さらにその過程において観点を明らかにしながら活動に肯定的な評価を加えていくことが大切である。

③ 活動内容の選択

ここでは、生徒会活動が学校行事への協力として関われるものを取り上げる。

- ・学芸的行事：文化祭・学芸発表会・合唱祭・展覧会など
- ・健康安全、体育的行事：体育祭・運動会・球技大会・水泳大会・マラソン大会など

(4) 生徒会活動指導実践例

ア 運動会 — A中 開閉会式セレモニー・応援合戦 —

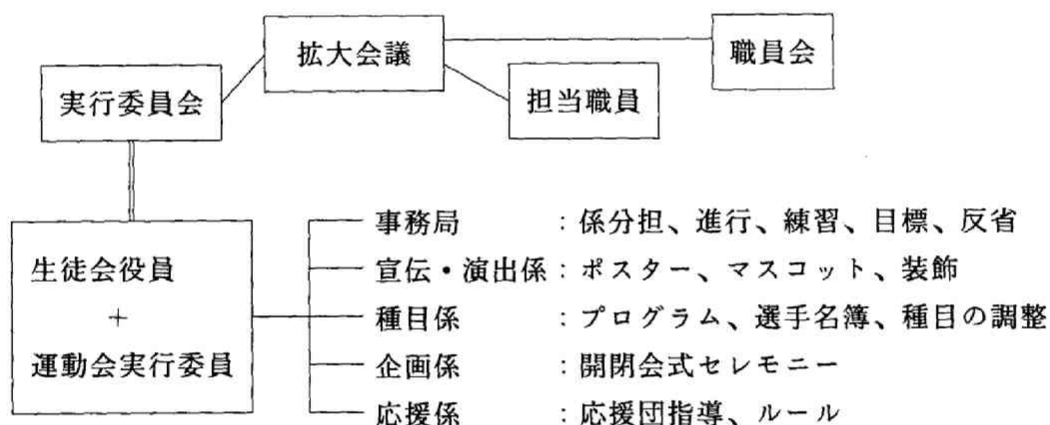
① 指導・援助の方針

昨年度までの本校の運動会は、学年別学級対抗の形式で行われていた。しかし、毎年1学級ずつ減少していく本校の実態を考えていくとき、学級対抗という形式を根本から見直し、検討していく時期にある。そこで、今年度は学級を縦割りにし色別対抗の形式を取り入れ、生徒全員が学級の枠を越えた活動を通して運動会を作り上げていくことに決定した。その中で生徒が自主的に取り組むことができる場面の一つとして、開閉会式をより充実させるとともに、本校では初の試みの応援団を組織し、実行委員会が中心となって企画、運営を行い、運動会を側面から盛り上げる活動をしたい。

ねらい・『誰もが喜んで参加でき、一人一人が活かされる楽しい運動会』にすることを目指して、生徒が運動会の中心になるような組織的な活動をする。

- ・生徒、教員、地域が一体となって運動会を創造的に作り上げる喜びを味わい、連帯感を持てるものにする。
- ・学年の枠を越えた集団の団結力のすばらしさや美しさを理解できるようにする。

組織



② 援助の経過

活動内容	生徒会役員の活動	教師の援助
実態把握 6月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の運動会に期待するものは何か。 ・どんな形式にしたいか。 ・自分達ができるものは何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲を高める課題の提供 ・ビデオ学習
組織づくり 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一役の役割分担 ・実態に合った組織の工夫 <ul style="list-style-type: none"> a 実行委員会 b 色別学級：50mのタイム順に、全学年を色別に4チームに分ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料提供 「昨年度の運動会から」

スローガンづくり 拡大会議の設置 9月	・『輝け心 競え技 燃やせ身体 ―― 築け新たな伝統を ――』 ・自由な発想で課題を考える。 ・役員会で共通理解する。 ・各係のチーフ原案提出、担当教師との会議 ・広報活動：「運動会ニュース」による全校生徒への伝送	・「ねらいは何か」 ・各係間の連携を図る。 ・助言・指導 ・決定内容 職員会議に提案、承認
活動内容例：応援係		
	a 視聴覚による学習：応援団とはどのようなものか、役員と応援団全員で2校の応援を鑑賞、イメージを描く。 b 基本演技、自由演技についてルールを決定する。 c 練習の指導：基本演技の定着を図る。 d 応援団の声により全体の運動会に対する意識を高める。 e 応援リハーサル：自由演技の言葉だけのリハーサルと踊りをつけ本番同様のリハーサルを全員で行う。	・資料提供 ・練習時間の確保：基本演技の練習を昼休みに設定 ・基本演技の型を教える。 ・呼びかけ、励まし、指導 ・必要に応じて個別指導 ・応援の口上と内容へ助言
実践 評価	・開会式：色別スローガン発表、聖火ランナーによる生徒同士の呼びかけ合い。 ・応援種目4分野をコンクール形式で行う。 基本、自由演技、競技中、マスコット ・閉会式：「4つの拍手」一人一人の活動を認め合う。自己評価、相互評価をする。	・活動に対する賞賛的評価 ・来年度の課題に気づかせる。

③ 成果と今後の課題

今までの運動会では、開閉会式の企画・運営が主だったが、応援が加わったことと色別のチームに分かれたことにより、学級・学年を越えた集団ができ上級生・下級生の関係を今まで以上に深めることができた。特に3年生は積極的にリーダーシップを発揮し1、2年生もフォロアースhipをとるなど積極的な交流ができた。調査結果から、

- ・自主的に協力できた。
- ・計画から参加、協力できた。
- ・計画からの参加を通して、充実感・満足感・活動の喜びを感じた。

その中でも特に、活動の喜びについては、役員のほとんどが「感じた」という回答結果であった。また、学年がすすむにつれてよい結果がでていく。生徒の作文からも

- ・学年を越えた協力がみられた。
- ・他人のことをよく考えて協力し合うことができた。
- ・今までとは違う前向きな気持ちで運動会に参加することができた。

等、生徒の意識が向上したことがうかがえる。

今後の課題として、この色別学級の組織を年間計画へ位置づけ、教職員及び保護者の理解・協力を得ることにより、実践的な活動に深めていくことが必要である。

イ 文化祭 — B中 開会セレモニー・本部企画 —

① 指導・援助の方針

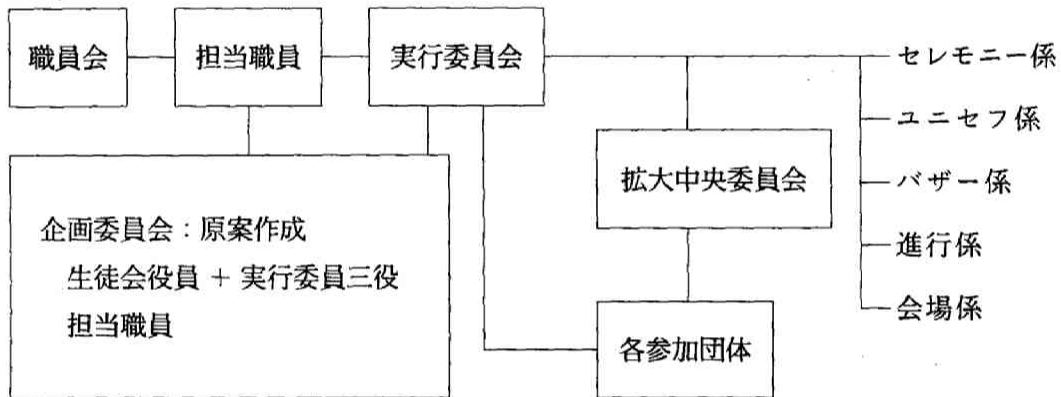
本校は行事が盛んであり、生徒も熱心に取り組むが、協力組織である生徒会は与えられた仕事をこなすのみの状態になっている。特に「むらさき祭」とよばれる文化祭にいたっては役員会の仕事すらない状況であったために、当然生徒の満足度も低いものになっていた。その原因を考えてみると「原案が決定済みのため、生徒の発想の生きる余地がなく、自主性の生かせる場面がほとんどない」ことであると思われる。

そこで、本年度の文化祭は原案の作成段階から生徒の意見を取り上げ、実行委員会と生徒会を強力にタイアップさせてみたい。

ねらい・学校における日常の学習や活動の成果を発表、展示することにより、生徒相互の発表力を高め合う。

- ・生徒の発表、展示を鑑賞する態度を養う。
- ・生徒会役員と実行委員を中心に組織的自治的な活動を育てる。

組織



② 援助の経過

活動内容	生徒会役員の活動	教師の援助
実態把握 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒対象の実態把握アンケート集計、結果報告 <ul style="list-style-type: none"> a 生徒主体の取り組みになっていない。 b 生徒の発想を生かす場がない。 ・アンケート分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭全体の原案を企画委員会で考える。 ・資料提供
課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・「ねらい」をどこにおくか。 ・「むらさき祭改革元年」と称して生徒会役員、実行委員会全体の文化祭に切り替える。 ・具体的に何を改革するか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握 ・どういう「むらさき祭」にしたいか。 ・企画・運営に可能な部分はどこか気づきを促す。
組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中央委員会での係希望聞き取り ・係決定、原案決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望制の意義説明 ・職員会議原案提案、承認

めあて づくり 活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒対象テーマアンケート実施、集約決定 ・本部企画検討、具体化 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題提起 ・提案のねらい、方法、条件等を検討、助言、励まし
生徒主体の取り組み		
	<p>本部企画 テーマを決め：昨年度までテーマはなかった。 本年度テーマ『自由と平和ってなんだろう』</p> <p>a 開会セレモニー ビデオ、寸劇、ユニセフ協会による講演会 16mm映画「わたしたちを忘れないで」</p> <p>b チャリティーバザー：ユニセフ協会へ寄付 中央委員会を通じての係分担</p> <p>c 教科から学級展示への転換「学級の取り組みも大切」 学級参加の呼びかけ…展示、舞台に5学級の参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿ったセレモニー企画になるよう助言 ・本筋をはずさないよう、開会セレモニーからのつながりを助言・指導 ・「全体として盛り上げに欠けるのはなぜか」問いかけ
10月 11月 実践 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本部企画としてのセレモニー内容決定 ・企画 a セレモニー脚本・練習 ・準備 b スタッフ・キャスト選出 c バザー出品アンケート・準備 d ユニセフ訪問・協力依頼・学習 ・実施 ・全校生徒対象アンケート実施、集計 ・自己評価・相互評価 ・実行委員会反省会、朝礼 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議提案、承認 ・助言・指導 ・活動に対する賞賛的評価 ・反省資料提示 ・来年度の課題に気づかせる。

③ 成果と今後の課題

自分たちの力で企画・運営をする部分を与えたことで生徒の主体性が育ち、一人一人が生きる結果になった。今回は本部企画としての開会セレモニー及びそれに続くユニセフバザーの企画・運営を生徒会役員が主体となって実行委員と共に実践した。観察と調査結果から以下のことがわかる。

体験活動・学校行事のねらいや目的を正しく理解できた。

- ・協力して行事を盛り上げようとし自分の役割を考えて行動できた。
- ・企画段階から参加して、充実感・満足感を得た。

話し合い・積極的に参加しようとした。

- ・企画委員会では気づいたことを意欲的に生かし原案、本部企画検討を行った。しかし、実行委員会では企画委員会の提案に対する承認の形になってしまい、気づきはあまり生かせなかった。

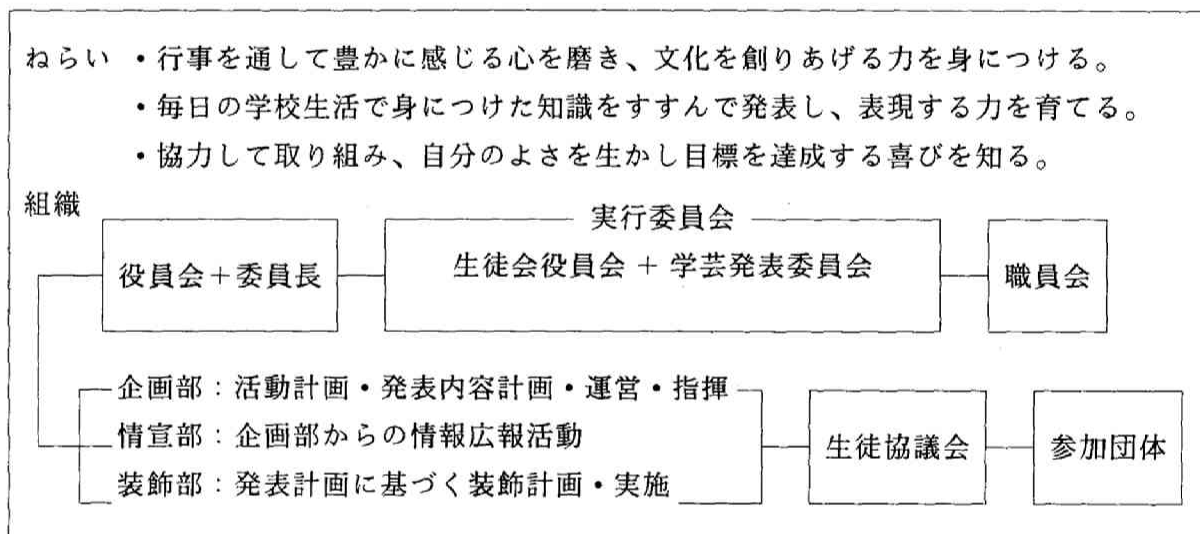
今後の課題として、生徒の過度の負担を避けるため準備日程の早期計画が必要である。

ウ 学芸発表会 ― C中 展示・舞台発表企画 ―

① 指導・援助の方針

学校行事への取り組みで活動計画を立てて実施することが多く、生徒会組織は活発に動いている。しかし伝統として引き継いでいく参加が多く、自分達で課題を見つけ考えを生かし解決していこうという経験が少ない。また生徒の意識も薄い。

『学芸発表会でできることは何か』という課題に気づき、話し合い活動を通して一人一人の「生徒の創意」を生かし解決に取り組む実践を、企画からの援助に工夫をして実施したい。



② 援助の経過

活動内容	生徒会役員の活動	教師の援助
実態把握 6月 組織づくり 課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・どういう内容にしたいか。 ・役割分担として何が出来るか。 ・生徒が主体的に参加できる活動とするため 実態にあった組織の工夫 <p>― 昨年の反省と今年のねらいから ―</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題：『2日間を充実させるため 何が出来るか』 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握 ・意欲を高め、課題を提供する。 ・資料提供：昨年度の取組み ・「ねらいは何か」を問いかけ
9月 めあて づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・役員会で課題を共通理解する。 ・スローガンからテーマへ 『創造 ― 新しい伝統は僕達から ―』 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の気づきを促す。 ・企画・運営に参加する意義の説明
活動内容の具体化 … 課題に基づいた活動計画、活動のねらいの明確化 …		
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒協議会での参加団体呼びかけ ・プログラムの作成 ・参加団体代表者の協力による展示 ・展示ガイドの作成、集計 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会組織を活性化する。 ・課題の呼びかけ ・「役割分担できることは何か」を問いかけ

	<ul style="list-style-type: none"> ・展示計画作成 ・舞台計画作成 ・開閉会式・セレモニー企画、運営 ・学級へ協力依頼、役割分担 ・下校指導など全企画の管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示鑑賞のねらいを例示する。 ・よい活動に賞賛的評価 ・反省会を必ず行い、自己評価力を育てる。
活動計画 作成 10月	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が無理なくこなせる計画を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動に助言・指導。 ・生徒の気づき、考えを大切にし、ねらいをおさえる。 ・職員会：提案・承認 a 指導・援助の方針、姿勢 b 生徒の活動内容・計画
実践 11月 評価	<ul style="list-style-type: none"> ・展示発表・舞台発表 ・展示発表：ガイドから見学状況を知る。 ・舞台発表：開閉会式の言葉で認め合い、成功を讃え合う。 ・反省アンケート実施、集計結果を知る。 ・広報活動：実行委員会日より ・集会活動：朝礼 ・役員会と学級の交流会・実行委員会反省会 ・日常の生徒会活動：委員会の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・よい活動に賞賛的評価 ・自己評価・相互評価の資料提示 ・今後の活動への課題に気づかせる。

③ 成果と今後の課題

学校行事への取り組みの中で、自分で気づき、考え工夫して解決し行動する生徒の活動を援助した。「生徒の創意」を生かして、学校行事に企画から参加することは生徒会役員だけでなく実行委員や全校生徒にも主体性を育てることになり、生徒の学校行事に参加・活動する意欲を高め、個性や能力を創造的に発揮することにもなった。生徒会役員対象の観察と調査結果から以下のことがわかる。

体験活動・協力して行事を盛り上げ自分の力を積極的に生かそうとした。

- ・行事の成功のために全体のことを考えて行動した。
- ・ねらいを正しく理解し、活動の喜び・充実感・満足感を得た。

話し合い・積極的に参加した。

- ・課題に気づき、解決する方法を十分考えていた。

また、生徒の作文からは、次のような反省がみられた。

- ・生徒全員で参加し、生徒会や実行委員とともに自分達で作上げたという充実感や満足感が感じられ、それが見ている人にもよく伝わった。
- ・みんなで1つのことを決める手順を正しく理解し、考えや意見を生かせた。
- ・計画から参加・協力し、企画・立案・運営の仕方を身につけた。

今後の課題として、学校行事の特質を生かして生徒会活動を適切に年間指導計画へ位置づけること、教師側が生徒の主体性を育てようとする姿勢を常にもつことがあげられる。

3 研究のまとめと今後の課題

生徒の創意を生かし主体性を育てる生徒会活動にするために教師は何を援助していくことが望ましいかを重要な視点にして検討してきた。まず、生徒会活動の特質をふまえた上で、「学校行事への協力」を通して生徒会が主体的に活動する場を設定した。そして、生徒一人一人が意欲をもって積極的に活動できるようにするために、生徒の創意を生かし全教師の共通理解のもと組織的に取り組ませることを行った。また、活動内容の選択にあたっては、学校行事という実際の体験や話し合い活動を取り上げ、生徒一人一人が自発的・自治的に活動していると実感できるように援助した。

このような生徒会活動を展開することにより、生徒が自分たちの力でやっているのだという意識が高まり、満足感・充実感が得られて主体性が育っていくのではないかと考えたのである。

特に、本分科会においては、実践の段階で実態把握、助言、指導、準備、資料提供、評価という援助の過程をとり、その中で生徒の活動を観察、記録した。

その実践の中から、以下の成果が得られた。

- ・企画段階から、原案を教師と生徒で作成し、その中で生徒は自分の意見が実現していくという喜びを得た。
- ・自分達の企画が実現できるという喜びから、積極的に話し合いや活動に参加しようという意欲が高まっていった。
- ・一人の生徒が課題に気づくことから始まって、課題が生徒の話し合いの中で深められ、集団のものになり、生徒は、共通の課題として実感することができた。
- ・意欲の乏しい生徒も、周りの生徒の頑張りを見たり、適切な教師の助言により、「自分もやらなくてはならない」と感じ、積極的に参加するようになった。
- ・生徒のお互いの励まし合いから、集団で何かに取り組むことが、すばらしいこと、楽しいことだと知ることができた。

また、今後の課題として、以下のことがあげられる。

- ・教師が提供する資料は、活動内容に対して、適切であるかどうかを十分吟味すること。
- ・生徒会担当教師と学級担任との連絡を密にし、連携を図ることで、生徒の話し合い活動や体験活動を活性化すること。
- ・今後、時間的な制約が予想される中で、活動が生徒の実態に合わせて無理なく進められるように生徒会役員会や実行委員会の定例会ができるような時間の設定をすること。
- ・生徒会活動が、学校行事への協力を通して自発的・自治的なものとなるように、助言、指導の方針を早期に立て、生徒会組織を活用しながら、年間の計画の中へ位置づけること。

これからの生徒会活動の実践においては、生徒会活動の内容として何をどのように行ったか、そして生徒がどのように活動したのかに加えて、指導者である教師がどのように関わっていくかが大切な課題であると思われる。